

## 重要魚種の資源培養技術の開発

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-07-17 キーワード: 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2010166">https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2010166</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



## 重要魚種の資源培養技術の開発

南伊豆栽培漁業センター

### 研究の背景・目的

南伊豆栽培漁業センターでは、東海三県（静岡、愛知、三重）の関係機関連携の核として、三重県の熊野灘から静岡県県の遠州灘を回遊範囲とするトラフグの伊勢湾・三河湾系群を対象に、共同放流効果調査に取り組んでいます。すでに共同放流調査により、本系群は伊勢湾に放流適地があることが明らかとなり、事業レベルで県の枠を超えて放流を実施する段階まで漕ぎ着きました（図1）。

本年度、本課題ではトラフグを対象とし、資源培養技術の重要要素である放流効果調査手法の高度化、効率化を目的に研究開発を行いました。

### 研究成果

漁業者、仲買人、加工業者及び、調理用フグの加工場の全面協力を得て、集荷されたトラフグの耳石を効率良く採集する体制を構築しました。放流種苗には耳

石にALC（色素：アリザリンコンプレクソン）で標識してあるので（写真1）、高価なトラフグでもサンプルを買い取ることなく放流魚の識別が可能となりました。また、加工場での耳石の採取に医療用アスピレーターを利用することで、人手によって耳石を掻き出していた従来の方法に比べ、採取効率を約2倍に高めることができ（表1）、調査手法の高度化が実現しました。

### 波及効果

トラフグ放流を行っている他海域においても、集荷される加工場がある場所では、本技術の直接の応用が可能となり、放流効果調査の効率化、高度化が図れます。また、県を超えた連携調査、放流が、他魚種、他地域で活発化することにより、広域種の栽培漁業の事業化推進に貢献します。

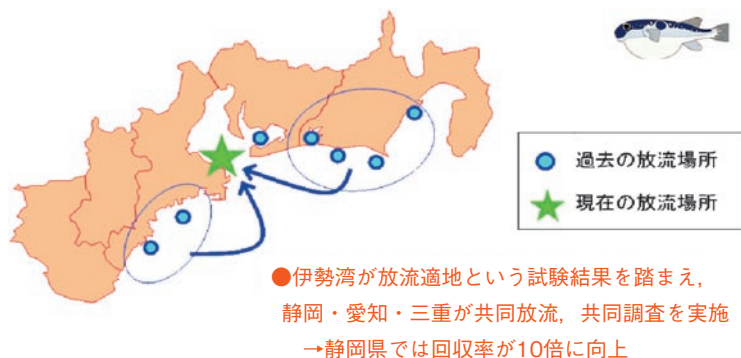


図1. 東海3県・南伊豆栽培漁業センター共同放流

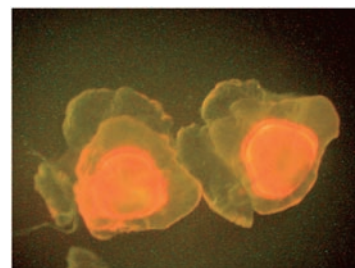


写真1. トラフグの耳石に付けたALC標識

表1. 遠州灘ふぐ調理用加工組合での耳石採集



	加工尾数 (尾)	耳石採集率 (%)	ALC 耳石数
掻き出し法	3,068	33.2	35
吸い取り法	5,191	72.2	430
	8,259		

- 加工場の全面協力で8,259尾(7,500万円分)のトラフグの耳石採集に成功
- アスピレーター使用による吸い取り法の導入で耳石採集率が格段に向上!!